第35课

一、新维 重点词汇

もし

ちゅうし (中止) ひょうげん (表現) はんたい (反対) えいぎょう (営業) おとな (大人) カタログ きかい (機会) きゅうじつ (休日) こんかい (今回) きく (効く) いわう (祝う) あたる (当たる) あく (空く) くさる (腐る) みつける (見つける) (晴れる) はれる たずねる (訪ねる) たいざいする (滞在する) きゅうけいする (休憩する) さんかする (参加する) へん (変) (完全) かんぜん ひつよう (必要) だんだん

【名】 终止、中顿 【名】 表达、表现 【名】 反对 【名】 营业

【名】 大人、成人

【名】 目录【名】 机会

【名】 休息日、休假

【名】 这次、这回

【动1】 有效、起作用

【动1】 祝贺

【动1】中(彩)、抽中

【动1】空、有空

【动1】 腐烂、腐败

【动2】寻找、看见

【动2】晴朗、天晴

【动2】 访问、拜访

【动3】 停留、滞留

【动3】 休息

【动3】参加

【形 2】 不恰当、奇怪、反常

【形2】 充分、完全

【形2】 必要、必须

【副】渐渐地、逐渐地

【副】 如果、假如

字

箔

报

第2页 《标准日本语初级下册》

1. 新维 日语语法内容

つたら

解:「たら」假定动作或者行为状态完了, "在²之后""如果²就²",所提示的前项都带有"实现、产生、完了"的意义,其后项多表示以前项实现完成为基础进而加以叙述。

接: 动词た形→たら/形 1 かった→/形 1 かったら 形 2/名だった→形 2/名だったら

例: ☆ 仕事が終わったら、紅茶でも飲みに行きましょう。 (下班之后的话,我们去喝喝红茶之类的吧。)

☆ 彼女はきれいだったら、付き合いたいです。 (她如果漂亮的话,我就想和她交往。)___

② ~ても

接: 动词て形

解:表示出现了前句事物、事项后,一般必然会出现的某事、或者某现象并未出现,二十出现了一般正常情况相反的现象。"即使²也""即便²也"

例:☆ 雨が降っても、彼は出かけました。

☆高くても、買いますよ。

☆静かでも、そこに住みたくないです。

补充:由接续助词「ても」来提示逆接的前项,既可以是既定事实,也可以是假定事实。 既定:存在的、可能做到的、已经做过的或者出现过的现象。

假定:不存在、不可能做到的,尚未进行的未来,或还没有发生的未来现象。

③ 名词+だけ

解:表示限定"只~""仅仅~"。客观叙述。

注: 一般可以替换助词「を」「が」,与其它助词连用时候多需要叠加。

常为「だけ」+原有助词的形式。

例: 机の上にリンゴだけあります。(桌子上只有苹果。) 王さんはペンだけ食べます。(小王只吃面包。)

补充:有些时候动词基本形和副词也可以直接连接「だけ」使用。

☆ 私はそばで聞くだけです。(我只在旁边听。)

☆ 少しだけ (只是一点点。)

第3页 《标准日本语初级下册》

④ 名词+しか+否定

解:表示限定"只~""仅仅~"。主观色彩强烈,强调句外内容。 一般可以替换助词「を」「が」,与其它助词连用时候多需要叠加。 常为「しか」+原有助词的形式。

例:机の上にリンゴしかありません 王さんはパンしか食べません

⑤ 名词+でも

解:表示极端的例子。"即使~都""连~都"。

例:先生でもできません。



剑与禅——武士道中的日本美学

禅的思想

要说"禅"是什么,那就是在说"无"。曹洞宗与临济宗都认为把使自身趋向"无"的修行即是坐禅。而说禅宗的"无",却不可简单以为就是了无一物。成为"无",实际上是回归于"无"(即"空",万物不生不灭的本来面貌),也就是经过修行,了悟到万物皆缘起、本无生灭的究竟之理。换言之,也就是体得与天地万物的一体感,领悟自身本具的佛性不增不减。

临济僧仙厓义梵的著名禅画《ㅇ△□》,长方形代表人,三角形代表坐禅的修行者,圆形代表悟道

教外别传 不立文字

佛陀教示的真髓无法以文字表达,必须以心传心,采取与文字不同的方法来传达。这就如同 天气寒暑须亲身去体感才能了解(如俗话"如人饮水、冷暖自知)。同样,深奥的"佛理" 也不能用文字传达,因此才有了临济喝、德山棒,以及禅门祖师留下的诸多看似无厘头的公 案。曹洞宗的坐禅提倡"只管打坐(しかんたざ)",也就是将百物不思、一心打坐的修行 贯彻到极致。道元禅师将这种方法作为佛法正门,置于禅门修行的最高位置。

超越生死

曹洞宗有一位著名禅僧名叫良宽。在良宽 70 岁时,新泻地区发生了大地震,造成许多人丧生。当时他给亲戚写的一封信留存至今,信中写道:"災難に遭う時節には、災難に遭うがよくそうろう。 死ぬる時節には、死ぬがよくそうろう。これはこれ、災難をのがれる妙法にてそうろう (灾难来时应之便好,死期来时赴死便好。这便是摆脱灾难的妙法)"。禅僧的智慧告诉我们,人终有一死,因此不要惧怕天灾,胆战心惊地过日子,死期到了就是一死

罢了,不要为此烦恼,要过好每一天生活。人必定有死的一天,在此以前不用过多去考虑,只需精彩地活一场就足够了。

禅与日本武士道

禅宗在日本文化史上留下深远的影响。自荣西将禅宗传到日本后,日本禅法大兴,由此形成临济、曹洞、黄檗三大派,一直发展至今,长盛不衰。禅宗的许多教理满足了武士的精神需求,受到武家的欢迎,被称为"武士的宗教"。铃木大拙在谈到日本佛教各宗时就做了一个归纳: "天台宫家,真言公卿,禅武家,净土平民。"这句话对禅宗与武士的密切联系做了精当的注脚。

直觉、行动、意志力

铃木大拙在《禅与日本文化》中写道: "哲学的見地からは、禅は知性主義に対立して直覚を重んじる。もし戦闘者の心に知的な疑惑が少しでも浮んだならば、それは彼の進行に大きな妨げとなる。(从哲学的观点来看,禅注重直觉,是与知性主义对立的", "如果作战者的内心浮现出少许知性上的疑惑,都会极大妨碍他部署行动)。" "禅は、合理非合理いかなる結論にもせよ、人がそれに達したものをもって突進することを説いた。禅は行動することを欲する。最も有効な行動は、ひとたび決心した以上、振り返らずに進むことである。この点において禅はじつに武士の宗教である(禅的教示认为,不管结论是合理抑或荒谬,对人力所能及之事,你只需一往无前地冲上去。禅诉诸行动。最有效的行动即一旦下定决心,便勇往直前,不再回头。在这一点上,禅宗可说是武士的宗教)。"

禅宗提倡直觉、行动、意志力,行动与意志力十分符合武家注重实践的性格,而直觉则是武士在实战中瞬时决断时所必须的素质。剑圣宫本武藏在《五轮书》中写道: "内外打成一片にして、善く無く、悪も無し、千刀万剣を唯一心に具足し、十方を通貫して転変自在也。

響へば水の如く(内外打成一片,无善亦无恶,唯一心具足干刀万剑,贯通十方而周转自在。若喻之,即如水)。"临济宗的泽庵禅师的话也大体是同一个意思,"勝負の根元は、自然の理にして、是非全く計りがたし、不レ思に勝、不レ量に負く、何に向って勝事を楽み、何に向って負くる所を悲しまんや、人間無常の習、其得失は唯天道自然の妙理也、故に敵に向うは勝負の是非を念はず一心生死を放念す(胜败的根源是自然之理,是非实难计较,胜败皆不思量,因何事而欣胜?因何事而哀败?无常是人事常情,得失唯天道自然妙理,故对敌时,不念胜败是非,只一心置生死而不顾)"。

勘破生死的觉悟

死对于任何人来说都是一个不可回避的大问题,佛经常常开示人世无常,刹那生灭,人命在呼吸间,一吸不来则属后世。禅宗特别教示了对死的觉悟。禅门认为,生未可喜,死不足悲,六祖惠能临终时说:"无动无静,无生无灭,无去无来,无是无非,无住无往(《六祖坛经·付嘱品》)"。"生和死并不是对立而是统一,超越生死的对立,从生死的羁绊中解脱,最后明心见性才是真正的目的。而禅的这种思想如何契合了武家的性格呢?铃木大拙写道:"潔〈死ぬということは、日本人の心に最も親しい思想の一つである、風に吹かれる桜のように散り逝くことを欲する。たしかに日本人のこの死に対する態度は禅の教えと一致したに違いない。庶民は自分たちがと〈に武士の仕方で鍛錬されていないときでもその精神を吸込んでいて、正しいと考えるいかなる理由のためにも、自分の命を犠牲にする覚悟をしている。これは従来、日本がなにかの理由で飛込まねばならなかった諸戦争で、しばしば証明せられてきたことである。日本の仏教に関して書いている外国の一記者は、禅は日本的性格だと適切な言を吐いている("洒脱地死"是日本人内心最崇尚的思想之一。他们向往如樱花随风而逝那般地去死。的确,日本人对死的态度无疑是与禅门教法一致的。即使不像武士那样训练,普通民众也充分吸收了这种精神,准备为了自己的正义而献身。这已在日本

历次进行的各场战争中得到了许多证明。一位外国记者在谈到日本佛教时说,禅就是日本的性格。这是再恰当不过了)。"

义经与辨庆

对武士来说,他必须时刻准备去死亡,就如《叶隐》的名言所说:"武士道といふは、死ぬ事と見附けたり(所谓武士道,即求死之道)"。战场上厮杀的武士需要一种哲学来思考死与生的意义,进而产生战胜死亡的信念,达到不畏死的目的,禅门教法要人当下照破生死,了悟本来无生无死,一切恋生惜死的想法只是自心中的妄想分别,放下对生死的执著,即能达到心无所住的境界,从此解脱自在。禅的这种思想无疑吻合了武士的精神需要。战国时代的著名武将上杉谦信对生死描述道:"生を必する者は死し、死を必する者は生く。生を惜しみ死を厭ふが如きは、未だ武士の心胆にあらず(欲生者必死,欲死者必生。惜生厌死者,非武者之心)。"而他一生的对手武田信玄也有一句相似的话:"参禅は別に秘訣なし、唯だ生死の切なるを思ふ(参禅无秘诀,唯思生死切)"。

